

ニッポン ドクター和の 臨終図巻



長尾和宏 (ながお・かずひろ) 医学博士。東京医科大学卒業後、大阪大第二内科入局。1995年、兵庫県尼崎市で長尾クリニックを開業。外来診療から在宅医療まで「人を診る」総合診療を目指す。この連載が『平成臨終図巻』として単行本化され、好評発売中。関西国際大学客員教授。

高田川部屋所属の三段目力士

だった勝武士関(本名・末武清孝さん)が、5月13日に都内の病院で死去されました。死因は、新型コロナウイルス性肺炎による多臓器不全との発表です。享年28。日本で初めての新型コロナウイルスによる20代の死者とされています。私と年代であらう親御さんの気持ちを思うと、言葉がありません…。

厚労省による先月の発表によれば、死亡者の8割が70代以上とのことで、若者は感染をしても重篤化しないイメージを皆さんも持っていたはず。そんななか、20代の現役アスリートの死は、国民に大きな衝撃を与えました。

映像を見る限り、土俵の上では元気はつらつな勝武士関でしたが、2014年から糖尿病を

156 勝武士関

患いインスリン注射による治療をしていたとのこと。たくさん食べて、体を大きくすることも仕事である力士は、糖尿病になる確率が自ずと高くなります。この連載でも、力士の訃報を幾度となく取り上げてきました。しかし、28歳とは若すぎます。そもそも糖尿病は、血液中のぶどう糖が多すぎる状態で、血管が傷つき動脈硬化が起こります。血管の内側にプラークと呼ばれる小さな膨らみが出来てそれが噴火すると血管が詰まってしまい、脳梗塞や心筋梗塞が起



きます。一方、新型コロナウイルスも、肺炎だけではなく血液中にも侵入して、血管の内側の膜の炎症を起こすことが分かっています。

スイスの研究によれば、新型コロナウイルスで亡くなった人の中には末梢の動脈が閉塞し、各臓器が壊死していたという報告があります。

つまり、もともと血管の内側に炎症をきたしている高血糖状態にある糖尿病患者さんが新型コロナウイルスに感染すると、血管に大きなダメージが起きて重要な臓器が機能不全に陥ってしまうの

です。「コロナ≠肺炎」だけではなく、「コロナ≠全身の血管の炎症」であると受け止めるべきです。だから、心臓、腎臓、肝臓などの多臓器にも多彩な症状が出てくるようです。

勝武士関が高熱を出したのは4月4日のこと。その日は、東京都での新たな感染者が100人を初めて超えた日であり、保健所や医療機関が混乱を極めていた時期でした。受け入れ先がなかなか見つからず、4日後に血液が出たところで、ようやく病院に救急搬送されました。一番大変な時期だったとはいえ、搬送までの4日間を思うとやるせない思いです。もしも私がかりつけ医だったら……。

糖尿病などの基礎疾患がある人こそ、大病院以外に、近所にかかりつけ医を持ってください。何かあったとき、いつでも電話で相談できる医者を見つけてください。勝武士関の死を忘れることなく、私も地域医療に邁進します。

20代：国民に大きな衝撃